

## 「コロナ後の未来」

スイッチON!! コロナの連日の報道で耳が慣れてしまってきているが、気を引き締めていかなければと日々自分に言い聞かせています。本当にあなたの責任感と意識高い行動に感謝です。ワクチン接種も始まりましたあと少し! 共に頑張りましょう! ありがとうございます!!

さて、先月に引き続きコロナ渦での私達の業界未来について考えてみます。

いきなり脱線しますが、まん延防止等々の施策で居酒屋さんの営業時間短縮や、席数を減らした営業とかお店側の対策がコロナ防止の対策になっています。

経営者の立場で考えると、まず飲食店出店のときの事業計画と店舗内装設計の計画段階で、席数と予想客数を考えて出店計画や事業計画を作り、銀行で設備資金と運転資金を借ります。しかもだいたい5~7年の返済予定で考えて行くわけです。

そうすると、今回のコロナ対策で、席数が半分、時間が短縮となると大きく事業計画むしろ返済計画は壊れてきます。もしあなたが、コロナだから仕方ないよねと考えた段階で、それは思考を停止させていますし、自分が借金背負ってない無責任発言になります、

会社とともに考えるリーダー思考、改善思考、向上心の中で自らの「人生を豊かに」していくわけですから、人生を他人に任せた発言はNGになります。コロナの教訓からどうお店が立ち直っていくのか、また、失われた売上をどう取り戻し、そこから未来をつくるのか、考えていくことになります。今この段階でもです。

現在、居酒屋さんや国民への補助金や銀行からの緊急融資等々、国レベルでたくさんの支援策が講じられています。コロナという緊急性の中で、速度と大胆施策が展開されていますが、コロナ後の財政の未来のことをまだメディアは僕たちに伝えていません。ましてや、ワクチンの一本あたりの価格や経費関連も未公開中です。

今の緊急事態の補助金、貸付金はどこで回収するのか、増税の中での我々が返済していくわけです。

ここまでは、日本全体の話になりますが、介護業界で考えれば、社会福祉へ回る予算は、コロナ後はより一層厳しくなるでしょう。保険の自己負担額も増額になるでしょう。問題は国全体の経済活動がコロナの影響で疲弊しています。

そうすると、医療と違い福祉サービスの優先順位は大きく下がります。介護業界の未来づくりのための予算は減額にはならないと思いますが、本来目指した予算以下にはなるでしょう。

先程の居酒屋さんのたとえば、一店舗のイメージですが、介護業界としての失われた予算をどう自らのアイデアで創造していくかを、われわれも考えなくてはなりません。

会社とか法人は別世界のものとあなたが思考するのも困るので、簡単に言えば、

コロナで戦った先には、本来得ていたあなたの利益を、今後はコロナの影響で機会損失したことを理解し、普段どおりの行動パターンや思考パターンだと失われたあなたの利益を、取り戻すための自分経営の経営者として取り戻していく思考に切り替えなど未来を作れなくなるのです。それを乗り越え成長したら、コロナ以前よりも鍛えられた思考で、以前よりもすばらしいあなたになることでしょう。



理事長の頭の中  
~おまけ動画~ Vol.4



社会福祉法人 千歳会  
理事長 左 敬真

